

NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第14号(20100709)

発行 竹田幸男



7月例会の開催

7月9日(金)の例会には松愛会寝屋川支部の伊藤支部長、柳生副支部長の激励訪問があり、話し合いや作品上映など例会活動の一部を見て戴きました。(例会の窓参照)

例会の窓

平成22年7月例会

日時：平成22年7月9日(金) 13:30
～ 16:30

場所：寝屋川市民活動センター 4階 こども室

出席：天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹下 竹田 谷 田淵(9名)

欠席：竹嶋 見学：田口(50音順・敬称略)

例会次第(今回の要約 小笠原氏)

1. 本日の見学者紹介 田口博史氏
 - ・ 昨年8月末退職、9月1日より当市民活動センター図書室勤務、週3日
 - ・ ビデオに関しては、放送用、業務用業務に携わってこられた。
 - ・ A V C H Dに興味を持っておられる。機材はすべて新しいものにしたいご意向。
 - ・ 先生・生徒を対象にした図書啓発ビデオを作成したいと考えておられる。

- 2 . 伊藤松愛会寝屋川支部長、柳生副支部長の激励訪問を受けた（寝屋川支部ページに掲載）。
 - ・ 動画に関する同好会としては「寝屋川映像同好会」が全国唯一のものであり貴重な存在である。
 - ・ 寝屋川支部の「寝屋川便り」を年2回から3回に発行を増やす。記事依頼への要請が早まっている。
 - ・ 立派な「NVC Monthly」を発行され敬服しているとお褒めに預かった。
 - ・ 竹田会長より、ホームページを見て他支部の方から便りがあったことを支部長に報告。
 - ・ 友路岐会・アサヒビール見学会等への参加要請あり・・・田淵さん、石田さん参加。

3 . 報告・連絡・協議事項

撮影協力依頼の件

- ・ 寝屋川市から「子育てに関する行事等」の撮影依頼打診があった。現在予算を申請中とのこと。このような要請にはどのように協力するか考えたい。

一般的に撮影協力依頼された時の問題点

- ・ 静止画写真撮影の感覚で依頼される。長時間を要する編集作業等ビデオ制作の困難さに対する認識に欠けるので奉仕した人が残念に思う。
- ・ 費用については、プロに依頼した場合のことを知ってもらうのが早道か？
- ・ いずれにしても、理解を深めていただく効果的なPRが必要である。

NVC Monthly記事の件

- ・ 8月号の執筆は「谷さん」。

市民文化祭（11/3～6）出品の件

- ・ 出品作品案
 - ・ はす酒を楽しむ・・・新井さん
 - ・ イエローストーン・マンモスホットスプリングスの巻・・・竹下さん
 - ・ 山田池の自然・・・谷さん

8月の例会で出品作品を決定する。

寝屋川市立地域交流センターの件

- ・ 寝屋川駅前に平成23年4月完成予定
- ・ 359席のホール
- ・ 使用料 全日約10万円/土日、約8万円/平日

他団体との関連事項

- ・寝屋川市映像協会 第7回映像フェスティバル。
- ・平成22年9月26日実施。
- ・各地の映像発表会の件
- ・京都シネクラブ60周年記念映像祭(6/20)・・・竹田さん、小笠原さん出席、感想披露(略)。
- ・2010年日本を縦断する映像発表会(7/20)・・・竹田さん出席。
- ・平野郷撮影会の件
7/13に、映像協会・上辻さん、映像同好会・小笠原さん第1回打ち合わせを行う予定。

パソコン編集操作に関して

- ・梶本さんの編集環境
外付けHDDの不良が判明、HDDを竹田さんから借り受けて映像取り込みが可能な状態になり、編集作業に取り組みたいとの表明があった。

4. 作品映写

「交野山へのハイキング」5分40秒：石田さん

- ・BGMの選曲は映像によくマッチしており良かった。
- ・ナレーションを入れると作品が引き立つ。ナレーションが無理ならテロップに工夫を「何の集まり?」「何人参加?」など。孫まで家族全員が集まったことを強調されるべきでしょう。
- ・強調したいものをトランジションで工夫されると良くなる。
- ・揺れの大きい画面はカットした方が良い。
- ・目的地到着までは詳しく、以後は簡略にするのがコツです。

「山田池の花」8分38秒 先月映写の修正作品：小笠原さん

- ・花の名前を入れては?という意見も出たが、花のイメージ映像と考えれば名前にこだわらなくても良いのではないか。
- ・ズームを終わってから、テキストを入れた方が良い。(ズーム中に文字が出ると読みにくい)
- ・ズームは意味をもったものにすべき。少なくなっているがまだズームが多い。
- ・テキストに感嘆符が多く付いているのが気になる。
- ・全体の長さを2/3位にした方が良い。

「ひなまつり」7分：谷さん

- ・町の催し風景を入れると全体がまとまった映像になると思います。

「寝屋川文化連盟60年の歩み」16分30秒：竹田さん

- ・ 60年記念式典で上映した作品。
- ・ 寝屋川市映像協会の実施した公開ナレーション録音会に参加した人には、録音時の状況と作品になった状況の対比の勉強ができたと思う。

「鷺の巣村 サンポール・ドウ・ヴァンス」9分48秒：竹田さん

- ・ フランス南部の城壁に囲まれたまちの映像。女性のナレーションは、パソコンソフト「声の職人」で作成したもの。

「城壁」9分45秒：竹田さん

- ・ この作品は、上記「鷺の巣村・・・」を約半分に短縮したものと残り半分は別の映像により構成した。映像を半分に短縮しても内容は十分伝わることを示す意図もあった。ナレーションは作者の声。
- ・ 欧州の城壁は町ぐるみを守るために作られている。日本の城壁は城主を守るもの。欧州は領民まで殺戮、日本は領民を殺戮しない、という文化の違いを城壁が語る。
- ・ 城壁あるいは石垣シリーズの作品作りも面白いと感じた。

4. 次回例会

- ・ 8月20日（金）13：30～ 於：市民活動センター こども部屋
- ・ カメラ担当：竹嶋さん



チャレンジ

谷 弘子

私が20代の頃、8ミリで父の三本仕立ての菊を撮影したことがあります。当時のフィルムは、カラーでしたが音声は入りませんでした。でも動画なので感動した記憶があります。8ミリフィルムは放っておくと劣化するため、お店でビデオテープにしてもらった後、長い間眠っていました。

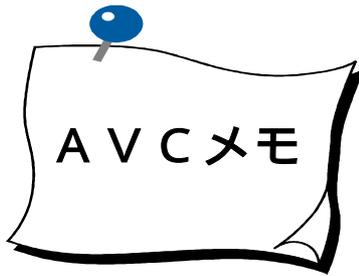
その後 映像同好会のことを知り、デジカメやビデオ撮りに興味があったので思い切って入会させていただくことにしました。（女性が一人なので、どうしようかと迷ったのですが。）定例会では、専門用語を話されると理解できないことばかりでした。又、何を質問していいのかも わからない状態でした。会長はじめメンバーの方々から丁寧に教えていただき、今では少しずつ簡単な編集が出来るようになり、おもしろくなってきつつあります。

おかげで、昔の菊作りビデオに音楽を入れて、父にプレゼントすることができて喜んでいきます。

これからも、観ていただける方の笑顔を思い浮かべながら、ビデオ作りに励みたいと思っています。

液晶・プラズマ・CRT

竹田 幸男



編集用パソコンの CRT モニターが不調なのと、画面が小さくて不便なので、液晶に代えました。超解像技術というふれこみの三菱 Diamondcrysta RDT231WM-S ですが、作り物の映像を見ている感じで違和感があります。

当家のテレビは CRT (ブラウン管) の 32 型フルハイビジョンですが、たまに旅館などへ行ったときに液晶テレビに写った映像を見てがっかりします。特に人の顔が平面的で顔に丸みがないのです。そしてハイライトが白くつぶれて、てかてか光って見えます。それもそのはず、液晶テレビ(モニター)は液晶で描かれた映像(白黒)の裏から放電管(蛍光灯のようなもの)で照らして、カラーフィルタで色を付けて目に見えるようになっています。

電卓の画面を見ますと白黒の数字が見えますが、あの数字の後ろからライトを当て、色の付いたフィルタを通して見ていると考えてください。こういう原理を頭に浮かべながら画面を見ると、それでも良く写っている方だと感心します。

液晶は消費電力は少ないがコントラスト(明るい所と暗い所の明るさの差)が小さく、動きの速い物はちらちらして見える、と言われます。原理が全く異なるプラズマは画素自体が光を出しますので、コントラストは大きく、動きの速いものもちらつきが少ないのですが、やや電力を食うのと、小型のパネルが作れないのが欠点です。

アナログ放送の停止を一年後に控えて、いまテレビの買い換えをお考の方もあると思いますが、映像にうるさい皆さんもテレビの選択には十分熟慮されることをおすすめします。

もう消えてゆく CRT (ブラウン管) は大きくて、重い、電気を食う、という欠点は最後までつきまといましたが、優れた発色性、十分なコントラスト、動きの再現性も良く、長い歴史に磨かれた、優れた技術遺産であったことを今更ながら痛感しています。

ハイビジョン撮影データの保存について

竹田 幸男

1. ハイビジョン撮影の必要性と課題

いま、市場で売られている家庭用のビデオカメラは、殆どがハイビジョンカメラになっています。DVテープで映像製作をスタートした方も2つの意味でハイビジョン対応を迫られることになります。

その第1は、今使っているカメラが壊れたときです。家庭用としては、もう店頭でDVカメラは殆ど無く、残った在庫品が売られている程度です。さらに上級アマチュア用の大きくて値段の高い機種がわずかに残っている程度で、後は中古品を買うかどうか。

その第2は、高精細な映像の魅力です。私は作品製作は過去の撮影遺産もあり、DVでの製作を続ける傍ら、旅行などには数年前からAVCHDによるハイビジョン撮影を始めています。海外旅行などで、特に風景撮影で、天候の良いときなど、現地に立っている感覚そのものを再現してくれるようなハイビジョンの精細な映像に息をのみます。

私たちの映像製作は美しい風景や花や静物などの再現だけが目的でなく、人々の生活の営み・活動・思いを伝える、あるいは歴史の重みに感動した気持ちを伝えるなど色々の目的があり、それらを撮した映像はきれいなことに越した事はないのですが、まず中身を伝えることが大切であり、技術的、また経済的な制約でその表現が妨げられないことが望ましいと考えます。

DVテープを用いた撮影と編集は、いまでは非常に簡単であり、数万円で手に入るパソコンでも楽々編集できます。それに反しハイビジョン、特に今多数派になってきたAVCHDカメラによる映像の編集には、たとえば30万円以上のパソコンでも色々な工夫をしてやらなければ楽々と編集するわけに行かず、また設定やファイル形式の変換など操作・編集技術・知識も高度なものが要求され、DVテープで編集していた人が今すぐに移行するには敷居が高いのです。さらにこれから初めてやって見ようとする人にはもっと敷居が高く感じられるでしょう。編集により、より高度な映像作品を作りたいとする人々を技術の進歩が逆に束縛しています。この解決には少し時間を必要とするでしょう。

2．ハイビジョンデータの記録保存方法

このような課題はさておき、とりあえず今のうちからハイビジョン映像を撮るだけでも撮っておきたい、と考えられたとき、次の課題は**撮影データをどのように残しておくか**と言うことです。今まではテープだけでしたから、撮影したテープをそのまま置いておけば良かったのです。ところが今はDVD、BD（ブルーレイディスク）、メモリ、HDD・・・様々な記録媒体があります。DVDやBDであれば、そのまま残しておいてもコスト的に大きな負担がないのですが、メモリはまだコストが高く、撮ったデータをそのまま入れて残しておくには高価です。さらにメモリが内蔵されたカメラやHDD内蔵のカメラでは、データをカメラから取り出さないと次の撮影ができません。ではどうすればいいのでしょうか。

DVDバーナーというものがあります。カメラで撮ったメモリやHDDのデータをDVDにコピーするものです。買って使ってみました。そしてすぐやめました。問題は2つあります。

第1はDVDの容量です。4.7GBしかありません。今、メモリの容量は32GB、64GBと大きくなり、内蔵メモリ96GBのものもあります。96GB一杯に撮ったら、コピーするには単純計算で20枚以上のDVDが必要

です。操作と保管の手間も大変です。

第2に大きな問題があります。撮影したAVCHDデータのうち映像データは「mts」という識別子が付いたファイルとして記録されます。ところがDVDバーナーで記録すると、これが「m2ts」という識別子の付いたファイルに変換されます。それは良いのですが、撮ったままの「mts」ファイルには撮影した時の時間情報（年・月・日・時・分・秒）のデータが保存されています。これがあれば何年後でもいつ撮影したかがわかります。（DVテープにもコピーしない限りこのデータが残っています。）ところがバーナーで変換保存された「m2ts」ファイルには撮影時の時間情報のデータが消え、変換時の日時データになってしまいます。その後で元のデータは消すわけですから、日時記録は消えてしまいます。これを見て、1回限りでバーナーの使用はやめてしまいました。後になって、いつ撮したかがわからないのは困ります。

3．私の保存方法

それでは、今はどうしているかと言えば、HDDに記録しています。「え、あの、いつ壊れるかわからない、HDDに？」と思われるかもしれませんが、これには細工があります。2個の同じ容量のHDDをケースに入れて、2個ともに同じデータを同時に記録する「RAID1」（レイドわん、またはレイドいち）という方法で記録しています。この方法を「ミラーリング」ともいいます。2つのHDDが同時に壊れることはないだろうということを前提にして、もし1方が壊れたら壊れた方を外して新しいHDDを入れて、残った1個から同じデータを注入して復元します。レイドには色々な方法があって、多くはデータを安全に保存することを目的にしていますが、HDDへの書き込み、読み出しを早くするための「レイド」もあります。レイドについては、またゆっくりと書いてみましょう。

いくらレイドが損傷に強くても、そこはHDDですから、人為的に誤って消す、あるいはデータ自体が何らかの原因で損傷することがあります。そのため、大事なデータは別のHDDか、或いはブルーレイディスクなどにも並行して保存する、という配慮も必要でしょう。

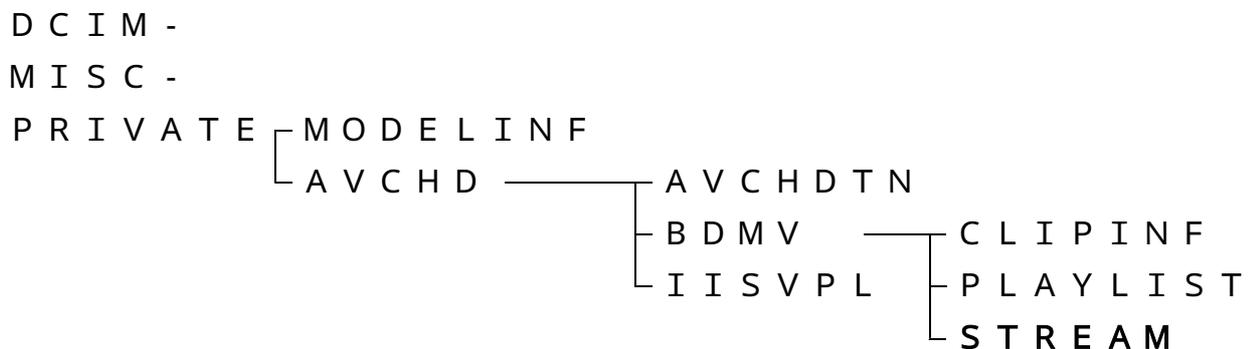
今の家庭用AVCHDハイビジョンビデオのレベルでは8GBあれば1時間の撮影ができます。ということは1TB（テラバイト）のHDDには単純計算で125時間の撮影データが貯蔵できます。

4．保存方法の細部

ハードディスクは大容量ですから、たくさんのデータが入ります。どこへ、何を入れたかわからなくなると探すのが大変です。ですから必ずわかりやすいフォルダをツリー（木の枝）状に作ってその中に保存しましょう。たとえば、年を表すフォルダ「2010年」の下に、たとえば「山田池撮影会2010060

9(2010年6月9日)」などのように、行事と、その日付を示すフォルダーを作っておきます。

カードリーダー・ライターをUSB端子につなぎ、カメラから取り出したSDカードを挿入します。内蔵メモリの場合はカメラとパソコンを所定のケーブルで接続します。パソコンがSDカード、またはカメラ内蔵のメモリーをドライブとして認識したら、カード内またはカメラ内のすべてのフォルダーを「すべてを選択」して、「コピー」し、先ほど作ったHDD内の「山田池撮影会20100609」のフォルダーをクリックして開いて、そこへ「貼り付け」します。容量とパソコンのパワーに応じた時間をかけてコピーが終了します。カメラ内またはSDカード内のフォルダー構成は、下記のようなツリー(木の枝)状の構成になっています。



このSTREAMフォルダーの下に「00000.mts」から始まる映像ファイルが並びます。1つのファイルは1カットの撮影を始めてから終わるまでの映像データです。この「*.mts」だけを保存しても映像は残るのですが、このツリー状をそっくり残す意味は、このツリー状の構成をそっくりカメラ側に書き戻すと、カメラで再生できますが、そうでないとカメラ側が再生することが出来なくなります。この「mts」ファイル以外の所にカメラから再生するためのデータが隠されていると思われます。DCIMのフォルダーの下にはビデオカメラを使って静止画撮影したときの写真データが入ります。「mts」ファイルとDCIM以下の静止画ファイル以外のデータ量はわずかですので、そのまま残しておかれるのが良いと思います。カメラまたはメモリーから取り出した後で、このツリー内の構成を一つでもいじったら、カメラに戻しても再生されませんから、ひたすら大切に保存してください。

以上これからAVCHDカメラによるハイビジョン撮影をする方のための参考ですが、今必要のない方は忘れてください。必要になったときに「あ、そんなこと、何か書いてあったな。」と思い出してくだされば結構です。